

行政調査報告書「市民文教常任委員会」

平成28年7月20日（水）～7月22日（金）

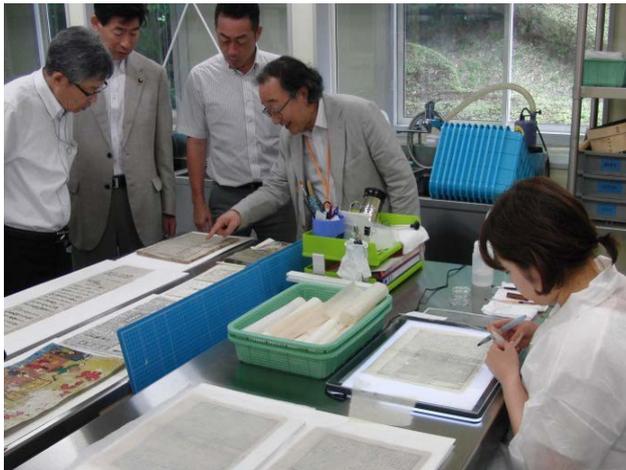
■千葉県市川市『地域ポイント制度「いちかわエコボカード」について』

エコボカードとは、市民に地域へ関心を持ってもらい、市民活動への理解と参加を広げながら、支援を図ることを目的とし、市指定のエコロジー活動やボランティア活動などに参加し、ポイントを獲得できる制度である。そのポイントで市の有料施設に入場できたり、支援対象団体にポイントを寄付できるという大変ユニークな制度であった。費用などの課題はあるが、工夫を凝らせば本市でも検討の余地があると感じた。



■岩手県立博物館（岩手県盛岡市）

『各学年の学習単元に応じた展示解説、出前講座、文化財レスキュー活動について』



出前講座では、学芸員が実物やレプリカを使って子どもたちの興味を引き出していることがとても良いと思った。文化財のレスキューは、東日本大震災で被災した古文書や絵画などの修復を行っている。専門性が高く、技術と根気のいることから、人材育成も含め体制作りが重要となる。本市では、これからの取り組みとなるが、大切な文化財を守るために、早急に災害時の対策を講じる必要があると強く感じた。

■秋田県秋田市『スポーツホームタウン推進事業について』

秋田市は、市のイメージアップを図り、中心市街地の活性化と交流人口の拡大を目指すことを目的に行われている。本市でも、事業が始まったばかりであるため、交流人口の拡大を求め、地域活性化の一つとして機能させ、トータルプランを構築する必要がある。そのためには、市民サポーターと地元商店街や産業界の参加によるホームタウン化を進めなければならないと感じた。

